

登録コード	A3596447	開講年度	2026					
授業科目	専攻研究Ⅲ					担当教員	瀧 康範	
英文授業名	Thesis ResearchⅢ							
単位数	5	講義期間	後期（随時）	曜日・時限	集中・不定期	対象学生		
講義室				授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンベンション	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】	
	2022Aカリ，2021Aカリ，2020Aカリ，2019Aカリ							
	【2022年度以前カリ対象】専門的な知識や研究能力を修得している					⇔	青果物の品質，栄養・機能性成分に関する分析や評価方法を身につけ，研究課題に関するデータ収集と結果を熟考できる能力を修得している。	
	【2022年度以前カリ対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している					⇔	青果物に関連した世界的な研究情報に基づいて自身の研究課題を解決する能力を修得している。	
	2026A3編（24A），2025A3編（23A），2024Aカリ，2023Aカリ							
	【2024年度以前カリ対象】専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し，発信できる能力を修得している。					⇔	青果物の品質，栄養・機能性成分に関する分析や評価方法を身につけ，研究課題に関するデータを収集でき，関連した学術情報を元に結果を熟考し，自身の成果を公表できる能力を修得している。	
	【2024年度以前カリ対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ，解決する能力を修得している。					⇔	青果物に関連した世界的な研究情報に基づいて自身の研究課題を解決する能力を修得している。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	各自の研究テーマと実験計画を必要に応じて見直しつつ，課題研究を進めます。後半には専攻研究論文の取り纏めに向けて，補足実験や論文作成に必要な情報を収集しつつ，まとめ方を熟考します。							
(5)授業計画	◎専攻研究Ⅱで実施した自身の研究課題の進捗状況，データ等の振り返りと協議 ◎卒業研究の詰めとしての，専攻研究Ⅲにおける実験計画 ◎関連学術情報の収集 ◎必要な各種の実験項目の実施 ◎実験データのとりまとめ，差や傾向の観察，追実験の必要性の判断 ◎各種の実験結果に関する考察 ◎図表の作成方法 ◎卒業論文の構想 ◎論文の書き方 ◎文献引用の方法							
(6)自主学習の指針	研究に使用する材料（栽培暦や収穫後管理，品質や成分その他），実験法や分析技術などについて，学術研究論文などからも情報を得ながら，研究内容や実験内容をより深く理解するように心がけてください。 得られている結果やデータをよく観察し，つじつまの合わないデータなどは原因をよく考察しつつ，繰り返し実験や補足実験を行い，解決して下さい。							
(7)成績評価の基準	1. 研究に必要な実験技術を修得しており，また，研究内容を適切に解説できるとき「水準にある」 2. 研究に必要な実験技術を修得しており，また，研究内容をわかりやすく適切に解説でき，十分な議論ができるとき「やや上にある」 3. 研究に必要な実験技術を十分に修得しており，また，研究内容をわかりやすく適切に解説でき，学問的に深い議論ができるとき「かなり上にある」 4. 研究に必要な実験技術を多数修得しており，また，研究内容を一般に理解できるよう簡潔かつやさしく解説でき，専門的観点から学問的にかなり深い議論ができる場合「卓越している」とします。							
(8)事前事後学習の内容	自分の研究課題に関連した学術情報は常に収集し，内容を理解しておくこと。また，実験に必要な技術については自身で積極的に練習を行うこと。さらに，個々の実験によって得られたデータについてはすぐにまとめ，結論を導き出しておくこと。							
(9)テストやレポートの予定	試験やレポートの予定はありませんが，専攻研究論文（卒業論文）発表会で研究内容を発表します。また，卒業論文の提出は必須です。 最後に授業アンケートを実施する予定です。							
(10)成績評価の方法	研究に接する態度，実験に対する誠実さ，研究課題内容の理解度，卒業論文・卒論発表の完成度により評価します。							
(11)質問、相談への対応および連絡先	質問は随時受け付けます。基本的に口頭で，場合によりメール等で対応します。 連絡先：青果物機能学研究室（C棟4階，C418室） Tel 0265－77－1413，e-mail: hamauzu@shinshu-u.ac.jp							
(12)履修上の注意	青果物を「食品」ならびに「生物」としての両面からとらえる目を持ち，化学実験にもなれていることが望まれます。3年次生対象（前期）の「青果品質保全学」は研究課題に関係が深い科目として重要です。また，2年次生対象（後期）の「植物資源科学実験法」は研究のための実験の基礎を学ぶ講義として重要です。これらの成績評価が低い場合，課題を復習していただきます。また，学生実験レポートの成績が低い場合，実験を再度実施していただく場合があります。							

【教科書】	特に指定しません。
【参考書】	「園芸作物保蔵論 ― 収穫後生理と品質保全 ―」（茶珎和雄（代表），建帛社） 「健康を考えた食品学実験」渡辺達夫・森光康次郎 編著（アイ・ケイ コーポレーション） 「園芸食品の加工と利用」緒方邦安著(養賢堂) 「園芸食品の流通・貯蔵・加工」樽谷隆之・北川博敏共著(養賢堂) その他，果実・野菜の成分や品質に関する書物や，関連する科学論文など。